

2050年東京の将来像

1	ゼロドラフト内では自然体験というワードが少ないと感じた。自然を守ろうと思うと自然とはどのようなものなのか知っている必要があり、またこれ以上環境を破壊したくないという感情を持ってもらう必要がある。若年層の自然体験への誘致などを取り入れる必要があると感じた。
2	現在東京都内では、生物多様性を意識した緑地作りが盛んです。その緑地が都内で完結し孤立してはあまり意味がありません。都内には玉川上水という山から都心へ向けた水と緑の通り道がしっかりと残されています。他にも都心に向かう河川はありますが、護岸工事がなされたりして、生き物たちの通り道としては玉川上水に匹敵するものではありません。玉川上水は都心における生物多様性を支える「水と緑の大動脈」となっています。暗渠化された玉川上水を復活させれば、さらにその機能は高まると思います。玉川上水全域が、都心へ生き物たちの通り道として充実したものになっている将来像を描いています。

基本戦略1（生物多様性の保全と回復に関する取組）

1	自然環境の保全と回復
---	------------

基本戦略2（生物多様性の持続的な利用に関する取組）

1	快適で楽しい生活につながる自然の利用
---	--------------------

基本戦略3（生物多様性の価値の認識や行動変容に関する取組）

1	人材育成と自然環境教育の促進
2	玉川上水において様々な生き物たちの観察会、歴史勉強会を行ってきている。講座の中では、単に生物学的な知識を教えるのではなく、私たちと生き物との繋がり、消費行動が生き物の存続に多大に影響することとセットで伝えようとしている。